

令和 5 (2023) 年度

事 業 計 画 書

自 ; 令和 5 (2023) 年 3 月 1 日

至 ; 令和 6 (2024) 年 2 月 29 日

公益財団法人

日本高等学校野球連盟

1. 高等学校野球の普及、振興、指導及び監督

- (1) 年度内に評議員会を1回、理事会を5回それぞれ開催予定。また毎月定例として、業務運営委員会を開催（8月、12月は除く）予定。
- (2) 年度内に各種委員会（総務、財務、選手権大会運営、選抜大会運営、軟式部、佐伯記念国際交流基金、医科学、技術・振興、プロアマ健全化、特待生問題研究、連盟70年史編修、高校野球200年構想推進）を必要に応じて開催し、諸問題の検討を行う。また、審議委員会を開催し（全体委員会を年5回、小委員会を週1回）、不祥事件に対する指導を行い、事件発生防止の重点目標を5項目（指導者の暴力（体罰）行為の根絶、部員の暴力・いじめ行為の絶滅、インターネットを利用した誹謗中傷・迷惑行為の防止、部活動引退後の3年生部員への指導の徹底、アウトオブシーズン中の指導の徹底）挙げて、指導徹底を行う。さらに審判規則委員会を年2回開催し、重点指導事項を挙げて、文書を配布して徹底を図る。
- (3) 年度内に都道府県連盟会長会議を1回、同理事長会議を2回それぞれ開催し、加盟団体との連絡、諸問題の伝達を行う。
- (4) 各種表彰（日本学生野球協会優秀選手表彰、都道府県功労表彰、育成功労賞表彰）を行う。
- (5) 平成30（2018）年度から開始した「高校野球200年構想」事業を都道府県高校野球連盟と協力しながら、野球の普及・振興のためにさらに展開していく。

2. 高等学校野球大会その他の試合の開催及び協力

(1) 第95回記念選抜高等学校野球大会

令和5年3月18日（土）から14日間（休養日2日含む）、阪神甲子園球場において開催する。出場校数は例年より4校多い36校。組み合わせ抽選会は令和5年3月10日（金）に毎日新聞オーバルホールで行う。

(2) 第105回全国高等学校野球選手権記念大会

令和5年8月6日（日）から17日間（休養日2日含む）、阪神甲子園球場において開催する。代表校数は49校（北海道は南北、東京は東西各2校）。組み合わせ抽選会は令和5年8月3日（木）にフェスティバルホールで行う。選手の健康管理や障害予防などの観点から、今大会より選手の登録人数を18名から20名に増やす。

(3) 第68回全国高等学校軟式野球選手権大会

令和5年8月24日（木）から6日間（休養日1日含む）、兵庫県・明石トーカーロ球場とウインク球場（姫路球場）を併用して開催する。代表校数は16校。組み合わせ抽選会は、各校主将がオンライン参加して、令和4年8月12日（土）に阪神甲子園球場で行う。

選手の健康管理や障害予防などの観点から、今大会より選手の登録人数を18名から20名に増やす。

(4) 特別国民体育大会・高等学校野球競技会

新型コロナウイルス感染拡大により、3年前に中止となった第76回国民体育大会が特別国民体育大会として、鹿児島県下で開催。高等学校野球競技は、例年通り大会の前半日程の中で後半の開催となる。

・硬式の部…令和5年10月8日(日)から4日間 平和リース球場(鹿児島市)

・軟式の部…令和4年10月2日(日)から4日間 ブルーチップスタジアム(出水市)

(5) 第54回明治神宮野球大会・高等学校の部

令和5年11月15日(水)から6日間(高校の部は準決勝翌日休養日)。日本学生野球協会、明治神宮外苑の共催で開催される。高校の部の出場校は例年通り10校で、秋季地区大会優勝校10校が出場する。

(6) 春季地区大会

各都道府県連盟の協力により、全国9地区(北海道、東北・岩手、関東・神奈川、北信越・石川、東海・静岡、近畿・大阪、中国・山口、四国・高知、九州・熊本)で令和5年4月下旬から6月中旬にかけて開催。

(7) 秋季地区大会

各都道府県連盟の協力により、全国10地区(北海道、東北・秋田、関東・栃木、東京、北信越・福井、東海・岐阜、近畿・大阪、中国・岡山、四国・徳島、九州・福岡)で令和5年10月上旬から11月上旬にかけて開催。

3. 高等学校野球に関する調査及び研究

(1) 全国高等学校野球選手権大会の記念事業の一つとして、第75回記念大会から加盟校の実態調査を実施、今回、第105回記念大会で7回目の調査となる。調査は各都道府県連盟の協力を得て令和5年4月を調査時期とし、これまでの調査項目を基本に、高校野球の現状を探る。

(2) 5月末現在の硬式、軟式両加盟校数ならびに部員数の調査を実施する。

4. 高等学校野球選手、部員等のスポーツ障害予防及び健康増進

(1) 1週間で1人の投手が試合で投球できる投球数を500球以内とする。今年度は導入3年目。

(2) 投球制限検証ワーキンググループ発足3年目となる今年、より効果的なデータ収集や分析方法を審議検討し、取り組みを進めていく。

(3) 投手の障害予防を推進し、1週間500球以内の投球数制限に関するルール作成に向けて、引き続き、選手権地方大会において可能な範囲で、準々決勝、準決勝、決勝後に登板した投手の関節機能検査を実施する。

(4) 選手の障害予防とより効果的なデータ収集のため、4大会(第104回、105回選手権大会、第95回、96回選抜大会)を目途として、全国大会で1回戦の試合から原則として登板投手を対象に毎試合肩・肘検診を実施する。

(5) 全国大会では今年の第105回選手権記念大会から各試合5回終了時に「クーリングタイム」を導入する。この時間は従来のグラウンド整備時間を含

めて10分間とし、選手の身体冷却や水分補給など暑さ対策に特化した取り組みを実施する。

また、昨年までの対策（応援団向け大型テントやミスト扇風機の設置、アルプス席近くの2階通路に学校応援団休憩所を開設、出場選手に対する手掌冷却の奨励など）をより一層強化して、阪神甲子園球場（入場門などに扇風機やミスト噴霧器の設置）にも協力をしてもらいながら取り組んでいく。

(6) 令和6年度のシーズンインとなる第96回選抜高校野球大会ならびに都道府県高校春季大会から硬式の金属製バットは、新基準への完全移行となる。

また、軟式用の金属製バットについては、高校野球用具の使用制限に合致するものが少ないため、令和5年度の同制限から使用できるカラーを緩和する。

このような状況下、朝日新聞社、毎日新聞社、日本高校野球連盟は、全国の高校野球のなお一層の普及、発展と、加盟校の経済的負担軽減を目指し、加盟校（硬式、軟式）へ金属製バットを各校2本ずつ配布する。

総予算は約2億5,000万円で、選抜大会ならびに選手権大会記念事業基金と当連盟基金をその費用に充てる。

5. 高等学校野球に関する講習会・研修会の開催

(1) 新任理事長研修会

令和5年度新たに就任した都道府県連盟理事長を対象に年度内開催予定。

(2) 審判講習会

①第63回全国審判講習会

令和5年4月29日(土)、30日(日)の2日間、阪神甲子園球場ならびに兵庫県立総合体育館で開催予定。各都道府県連盟から参加した受講者を対象にルール研修や実技指導を行う。

②地区別審判講習会

北海道をはじめ全国9地区の地区別審判講習会に講師を派遣する。

(3) 指導者研修会

都道府県連盟主催の加盟校指導者研修会に講師を派遣予定。

(4) 指導者育成プログラム「高校野球・甲子園塾」

高校野球のよき指導者となるために、教員資格を取得し現在教員として在籍10年未満の指導者を対象に令和5年11月ならび12月の計2回開催予定。

(5) プロ野球現役選手によるシンポジウム「夢の向こうに」

日本野球機構、日本プロ野球選手会の協力を得て、愛媛県で開催予定。

6. 高等学校野球を通じた国際交流及び国際相互理解の推進

令和5年8月31日(土)から台湾で開催される第31回WBSC U18 ベースボールワールドカップに高校日本代表チームを編成して参加する。また、チーム力

の向上や候補選手の強化を目的に、令和5年4月4日(火)から同6日(木)の2泊3日間の予定で代表候補選手強化合宿を行う。

大会日程 令和5(2023)年8月31日(土)から9月10日(日)まで11日間

開催地 台湾

参加国・地域 12ヶ国・地域

7. 高等学校野球に関する関係諸団体との協力及び提携

(1)日本野球協議会、全日本野球協会、日本野球連盟、全日本軟式野球連盟をはじめ全国高等学校定時制通信制軟式野球連盟、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟のほか少年野球団体とも密接に連絡、会合などを随時開催して相互の発展と振興を図る。

(2)都道府県高校野球連盟ならびに加盟校に対して、準備を進めてもらっている野球競技者登録システムについて、引き続き推進していく。

8. 就学前児童、小学生、中学生に対する野球の普及、振興

小学校、中学校野球選手、部員等のスポーツ障害予防及び健康増進

小学校、中学校野球に関する関係諸団体との協力及び提携

(1) 高校野球200年構想関連事業

普及、振興、けが予防、育成、基盤作りをテーマに、高校生だけでなく就学前児童、小学生、中学生まで対象を拡げて、各種事業を行う。

6年目となる本年度は都道府県高校野球連盟を中心に事業が全国で展開される予定。

以 上